

いよいよよスタート

大館西道路

国道103号大館南バイパス、市道東バイパスに次いで、高規格道大館西道路の建設工事がスタートしました。根下戸新町から商人留までを結ぶ延長六・二四メートルの自動車専用道路で、将来の高速度体系の一部を担う重要路線です。

自動車専用道路に

大館西道路は、市内国道7号線の交通混雑解消、交通安全の確保のため、昭和五十七年度に大館西バイパスとして事業がスタートしました。しかし、昭和六十二年九月に日本海沿岸自動車道（新潟本荘秋田能代大館青森）が国土開発幹線自動車道の予定路線に組み入れ

られたことで、すでに事業化していた大館西バイパスは、同自動車道の早期実現を図るとともに、将来の一部として活用できるよう、高規格な自動車専用道路、大館西道路として建設することに計画変更されました。

この西道路は、起点が根下戸新町で終点は商人留。区間延長六・二四⁺、幅員二十二⁺（四車線）、設計速度は時速八十⁺です。区間には長木川橋をはじめとして八つの橋が架けられるほ

か、根下戸新町には南インタチエンジン、商人留には北インタチエンジンがそれぞれ建設され、南インタチエンジンでは昨年からの工事が進められている国道103号大館南バイパスと、商人留では現在ある国道7号線と結ばれます。また、根下戸新町から沼館間には、西道路に沿って側道が同時に建設され、総事業費はおよそ百七十億円が見込まれています。

これまでに全線の約四〇%の用地を取得し、片山、長木川間では工事用道路も完成。十一月二日には起工式が執り行われ、長木川橋の下部工から、いよいよ本格的工事がスタートします。

高速交通時代へ

今日私たちは、道路、鉄道、航空の三つで形成される、いわゆる高速交通体系の恩恵を受け



大館西道路のくわ入れ式

て生活しています。しかし、これまで当市をはじめとした県北地域は、この高速交通体系が未整備で、空白交通地域とともいうかのように取り残されていたのが実情です。東北新幹線盛岡駅までリレー特急バスで約二時間半、県都の秋田空港までは約三時間を要し、首都圏等の大都市への交通は時間的に制約されているといわざるを得ません。

県都と大館周辺の地域間格差が依然として解消さ

市長メモ



No.21

時間は平等か

過般、私の就任十周年を祝っていただきました多くの市民の方々に、厚くお礼申し上げます。ところでその十年という時間です。「人だれにでも、時間は平等に与えられている」と考えますが、果たして時間を「量」だけから考えてよいだろうか、近ごろ思うようになりました。

「二時間という労働量」に対して「二時間という労働の質」を問うてみなくて良いだろうか。

「時を制する（時間の節約）」、「時を動かす（二十四時間化）」、「時を重ねる（時間の複合利用）」、「時を楽しむ（余暇時間の増加）」、こんなキーワードから時間をみると、量的な見方だけではあまりにも平凡で変化がなさ過ぎ、機械的であり、人間的でなさ過ぎます。

「効果」とか「質」という観点で時間を考えれば、新しい展開や活用法も開けてくるのではないのでしょうか。

あつし 眞澄

